

令和7年度の各部会の取組みについて

第1回 健康づくり部会		<事務局:保健医療企画課>
開催日時	令和 7年 8月 26日(火) 13:30 ~ 14:40	
出席者 (委員)	田中 英之 豊橋市医師会副会長 藤城 治義 豊橋市歯科医師会副会長 上東 博司 豊橋市薬剤師会副会長 辻村 尚子 豊橋創造大学准教授 高瀬 麗子 豊橋女性団体連絡会会員 加藤 久和 豊橋市社会福祉協議会事務局長 加藤 智久 豊橋商工会議所常務理事 熊崎 稔子 豊橋市保健所管内栄養士会会長・愛知学泉短期大学准教授	
議題	健康とよはし推進計画(第3次)の各項目の推進について 1 現状評価について 2 目標達成にむけて意見交換したい項目について	
内容	健康とよはし推進計画の各項目の推進について 1 現状評価について ○1 ポイント以上改善または、増加・低下ペースが良好な項目について 「健康づくり応援団」登録店数の増加や、子宮頸がん検診や骨粗鬆症検診の受診率の上昇。介護予防の運動に取り組むグループ数の増加や、ゲートキーパー養成者数の増加、とよはし健康宣言事業所数の増加などの改善あり。 また、妊産婦歯科健康診査受診率の上昇や、進行した歯周炎を有する者の割合の低下がみられ、歯の健康について意識が向上していると思う。 2 目標達成にむけて意見交換したい項目について ○計画策定時に基準とした令和4年度の現状値と令和6年度の現状値を比較し、1ポイント以上悪化または、増加・低下ペースが不良な項目について ① 朝食を欠食する割合について ② 肥満者の割合について ③ 特定健康診査の受診率を保健指導の実施率について	
委員からの 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の社会進出は盛ん。ただ、子育てや仕事など「忙しい」のがネックで、自分のことは後回しになりがち。受診したいが、行きたい時に病院が空いていないので、夜間や土日などに検診を実施してほしい。また、申込の方法は面倒くさくないということが大事。 ・ 日本人のBMIが貧困国に相当してきているということで、そういった傾向があれば、過度な痩身に対する対策も、今後必要になってくると思う。 ・ 年金暮らしの高齢者や経済的に余裕のない方は、生活費を削ろうとして朝食を抜くケースがある。 ・ 小学校から中学までとても多くの食育への取組がありすごくいい。ただ、教えている先生自身が朝食を食べているのか、朝食の大切さを理解してくれているか心配。先生の熱量が伝わらないと生徒も変わらないと思う。 ・ 朝食を作る時間がない、ご飯を作るのが苦手な家庭もたくさんあると思うので、簡単に朝 	

	<p>食を食べられる、気軽に取り組めることから実施することが大事だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働く会社でも朝食の大切さを伝えてほしいし、学校でも伝えてほしい。皆が共通認識で朝食の大切さを理解し熱量をもって伝えていくことが大事。 ・ 健康部長が商工会議所に来て、100人余りの経営者の前で、健康宣言事業所の PR をしていただいた。トップの意識改革も重要なので、こういったことはとても効果があると思う。費用をかけずに簡単にできることが多いので、成果を見える化して社内に広げていただきたい。 ・ 豊川市にスポーツジムが増えていたり、新しくイオンモールができ、歩数計とポイントアップの連動事業をやっており、運動を商業施設と上手く連携している。企業の中でお友達を作り、ポイントを競うなどし、一人ではできないところが友達と一緒にだとできるということにつながるのも良い。 ・ また高齢者に対し、体力測定で自分の体力を知ってもらうため、健康診断の中で握力測定などやってみることも良いと思う。 ・ 特定検診も受けていない、無関心層の方をいかに引き込むかがポイントだと思う。
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣病の予防や肥満対策にも重要な睡眠改善に関する取組について、地域や職域と連携しながら、多様な取組を通じて市民の食生活改善や運動習慣の定着とあわせて、取組を推進していく。 ・ 健康経営事業所について、今後も推進していかなければならないと思っており、200社以上を目指している。 ・ (高齢者の介護予防のため)地域での自主グループ活動を推進していくには、体操リーダーとなって活動していく方がキーマンとなることから、一人でも多くのリーダー養成を図るとともに、活動を継続していけるよう支援体制の充実を図っていく必要があると考えている。

令和7年度

第1回 感染症対策部会		＜事務局:保健医療企画課＞
開催日時	令和7年5月21日(水) 13:30 ～ 15:00	
出席者 (委員)	山口 俊介 豊橋市医師会 感染症対策担当理事 近藤 裕之 豊橋市歯科医師会副会長 上東 博司 豊橋市薬剤師会副会長 牧野 靖 豊橋市民病院副院長兼感染症管理センター長 山下 克也 豊橋医療センター院長 鈴木 勝明 成田記念病院事務長 伊藤 百合子 豊橋市訪問看護ステーション協議会副会長 海上 典子 豊橋人権擁護委員協議会	
議題	1 報告 豊橋市の感染症の発生状況 2 議題 (1) 豊橋市感染症予防計画の進捗状況及び評価 (2) 豊橋市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について	
内容	1 報告 豊橋市の感染症の発生状況 ・結核の罹患率の推移と、外国出生者の増加という傾向を説明。 ・その他感染症のR3～R6発生状況と、麻しんについて疑い事例発生時のフローを説明。 2 議題 (1) 豊橋市感染症予防計画の進捗状況及び評価 ・令和6年3月策定の本計画について評価指標を説明。令和6年度の取り組みを評価し、結果を説明。次年度からは主管課である保健医療企画にて進捗確認していくことで了承を得る。 (2) 豊橋市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について ・国、県が改定したことを受け、市町村の計画も改定する。計画の構成と、令和7年度中に改定していくスケジュールを説明。	
委員からの意見	・(発生届の電子化について) 医師に労力がかかるシステムだと医師の入力が進まない。コロナ禍ではFAXを中心としたアナログな方式で大量の情報を夜遅くまで処理していた。DXと簡単に言うが、医療の現場も人が多いわけではないので、現場の負担が減るようなシステムにしてほしい。 ・デジタル化について、蒲郡市で診療情報の共有システムがあると聞いた。豊橋市でも、医療機関間でもっと迅速に情報共有できるようになると、感染症がまん延した時に早く対応ができると思う。	
今後の方向性	・病院毎に導入しているシステムが異なっていること等が障壁となっている。他自治体等がどのようにシステムを活用しているのか情報共有していく。 ・豊橋市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定した素案を作成し、9月頃に書面開催しご意見を伺いたい。	

令和7年度

第2回 感染症対策部会		＜事務局:保健医療企画課＞
開催日時	令和7年9月30日(火) 書面開催	
出席者 (委員)	山口 俊介 豊橋市医師会 感染症対策担当理事 近藤 裕之 豊橋市歯科医師会副会長 上東 博司 豊橋市薬剤師会副会長 牧野 靖 豊橋市民病院副院長兼感染症管理センター長 山下 克也 豊橋医療センター院長 小林 将貴 成田記念病院感染対策室長 小椋 泰子 豊橋市訪問看護ステーション協議会会長 海上 典子 豊橋人権擁護委員協議会	
議題	豊橋市新型インフルエンザ等対策行動計画(素案)について	
内容	上記について、資料の送付及び意見聴取を書面にて行った。	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師も必要があれば接種者として動員される。また薬剤師もワクチンの注射器への充てん作業に携わるので、「市医師会等」という記載を「三師会等」へ修正してほしい。 ・指定届出機関等と指定提出機関等の説明文を入れたほうが良い。 ・爆発的に業務量が増加した場合は、業務を取捨選択し、公衆衛生上重要な業務は継続し、休止できる事業や外部委託できる業務を整理しておいた方がよい。 ・リスクコミュニケーションについて具体的な手段を挙げられつつ記載されているので非常に有用になる。新型インフルに対応される際には積極的に情報発信をしてほしい。 ・発熱外来の設置がどのようにされるのかを明記してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症のパンデミックの際には、医療機関や施設だけでなく、訪問看護ステーションもご考慮ください。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、相談窓口や、療養者の生活支援の配食サービスを外部委託した経緯がある。記載のとおり、必要に応じた人員の配置、IHEAT 要員の追加要請等を遅滞なく行い、業務継続計画に基づき有事における業務を整理していく。 ・新型インフルエンザ等の発生時において、訪問看護ステーションを含む、医療従事者への対応について、しっかり共有していく。 	

令和7年度

第1回 歯科保健推進部会		＜事務局:健康増進課＞
開催日時	令和7年12月4日(木) 14:30 ~ 16:00	
出席者 (委員)	嶋崎 義浩 愛知学院大学教授 城所 貴 豊橋市歯科医師会専務理事 河合 泰典 豊橋市医師会 林 彰久 豊橋市薬剤師会理事 岩瀬 賀恵 愛知県歯科衛生士会三河東部支部 支部長 石黒 節子 豊橋市中央地域包括支援センター	
議題	1 豊橋市歯科口腔保健推進計画(第2次)について ・令和6年度豊橋市口腔保健支援センター事業実績報告 2 乳幼児期の歯科健診の方向性について	
内容	・令和5年度、令和6年度の実績値の分かる計画指標の達成状況 ・豊橋市口腔保健支援センターで実施した事業実績報告 ・乳幼児期の歯科健診の方向性について、3歳児健康診査受診者を対象にアンケートを実施し、2歳児歯科健康診査の効果について考察を行った。	
委員からの意見	・フッ素洗口事業未実施施設への働きかけについて、行政と学校歯科医と両輪で行えるとよい。 ・自身にメリットがないとなかなか人は動かないのでインセンティブなどを考えるとよい。	
今後の方向性	・節目年齢で実施している市委託の歯科健診の受診機会が、定期的な歯科医院受診につながるきっかけになるように、関係者で協力していけるとよい。	

令和7年度

第1回 生活習慣病対策部会		＜事務局:健康増進課＞
開催日時	令和7年11月20日(木) 13:30 ~ 14:40	
出席者 (委員)	西田 元彦 豊橋市医師会 副会長 杵野 武彦 豊橋市医師会 特定健診・企業健診委員長 中村 文昭 豊橋市歯科医師会 理事 上東 博司 豊橋市薬剤師会 副会長 豊島 由樹子 豊橋市創造大学 保健医療学部看護学科 教授 土田 大祐 全国健康保険協会愛知支部 企画総務部機関グループ 補佐	
議題	1 特定健康診査等の現状及び受診率向上について 2 健診結果とレセプト分析からみる健康課題 ア 特定健康診査結果の状況と健康づくりに対する取り組み イ 糖尿病の状況と糖尿病予防に対する取り組み 3 医歯薬連携における糖尿病重症化予防	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市国民健康保険の医療費の現状について報告 ・豊橋市及び全国健康保険協会の特定健康診査の受診率の推移、豊橋市のがん検診受診率の推移について報告 ・豊橋市市民意識調査による健康診査の受診状況、未受診理由等に関する結果の報告 ・豊橋市及び全国健康保険協会の特定健康診査結果とレセプト分析からみる豊橋市の健康課題について共有 ・豊橋市及び全国健康保険協会の糖尿病や人工透析における現状と取り組みについて ・各課題に対する豊橋市の取り組み状況について報告するとともに、課題・取組の方向性について共有 	
委員からの意見	1 特定健康診査等の現状及び受診率向上について 受診券の発送方法等、検討できると良い。また、医療機関からの積極的な勧奨は継続して行っていくと良い。 2 健診結果とレセプト分析からみる健康課題について 豊橋市がHbA1cや糖尿病の有病率が他市や県と比べて高いことは何年も前から共通した課題としてある。重症化予防について、予備群の段階で発見し、できるだけ重症化しない生活習慣の改善を行っていくという地道な努力をしていくほかない。啓発等マスコミを巻き込んでいくことも一つ。また、若いうちからの健康づくりやターゲット層を絞った取り組みを行うと効果が見えてくるのではないかと。 3 医歯薬連携における糖尿病重症化予防について 医歯薬の連携は糖尿病に限ったことではない。いろいろな場面において引き続き協力ができると良い。	
今後の方向性	受診率向上について現在実施していることを継続しつつできることから進めていく。今後も関係機関との連携を進め、重症化予防対策を講じる。	

令和7年度

第1回 精神保健福祉推進部会		＜事務局:健康増進課＞
開催日時	令和7年7月24日(木) 13:30～14:55	
出席者 (委員)	小久保 至浩 豊橋市医師会 精神科医会長 近藤 裕之 豊橋市歯科医師会 副会長 井上 玲子 豊橋市薬剤師会 理事 佐藤 大介 可知記念病院 精神保健福祉士 木之下隆夫 心理相談室キノタ 公認心理師 早川 明子 愛知県産業保健総合支援センター 保健師 古地 英明 豊橋市社会福祉協議会 事務局次長 河澄 裕正 豊橋公共職業安定所 所長 中川 元宏 豊橋警察署 生活安全課 課長	
議題	1 報告 (1)豊橋市の自殺の現状 2 議題 (1)第2期豊橋市自殺対策計画における事業の進捗および評価・健康増進課のスケジュール (2)本市の30歳代に向けた取り組み (3)豊橋市の小中学生に向けた取り組み	
内容	1 (1)30～50歳代の働く世代の自殺者数が多く、さらに30歳代の自殺者割合が国と比較し、多い状況。 2 (1)計画の基本目標および重点取組の実績および全体の事業評価の説明。 (2)30歳代から50歳代の自殺死亡者の生活背景や、30歳代を対象とした事業抜粋し取り組みを提示。多機関との連携と事業の強化していく。 (3)小中高生の自殺者数が全国的にみて過去最多。学校教育課と連携して事業を展開していく。 ・自殺対策基本法の一部を改正する法律で、子どもの自殺対策が拡充予定。	
委員からの意見	・30歳男性の相談者の特徴は、生活環境の変化が生じ公私ともにストレスを抱え、ハラスメントを受けたという相談が多い。健康問題に加え経済面、職場の人間関係が重なることで追い込まれている現状がある。追い込まれた人が離職し、さらに追い込まれることが自殺につながる要因の一つではないか。 ・小児期の逆境体験により、発達障害に似た特徴がある子どもたちが増えている現状が話題となった。核家族化で子供を育てる力が落ちてきて環境的な要素が強い。 ・自己肯定感を高める関わりの周知が必要。行政でも家庭でもできることを周知して欲しい。 ・近年、AIが進化し子供の相談先として、AIも加わるようになってきている。支援機関はその現状を把握しておく必要がある。	
今後の方向性	自殺対策は、他分野の関係機関と横断的に支援していく体制づくりが必要。	

令和7年度

第1回 難病対策部会		＜事務局:健康増進課＞
開催日時	令和7年8月27日(水) 13:00 ～ 14:30	
出席者 (委員)	芳賀 勝 豊橋市医師会 難病担当理事 一瀬 浩隆 豊橋市歯科医師会 地域保健部 上東 博司 豊橋市薬剤師会 副会長 今福 恵子 豊橋創造大学 保健医療学部 看護学科 教授 重松 美生恵 愛知県難病団体連合会 理事・事務局 稲吉 充匡 愛知県医師会難病相談室 主査 豊田 剛士 豊橋市中央地域包括支援センター 管理者 鈴木 陽一郎 とよはし総合相談支援センター ほっとぴあ 統括相談員	
議題	1 報告 (1)豊橋市難病対策事業の実績について 2 議題 (1)令和6年度難病患者・家族の支援に係るアンケート調査について (2)令和6年度難病患者・家族の支援に係るアンケート調査結果からみる課題・取組の方向性について	
内容	1 報告 豊橋市における指定難病医療費助成の実績、令和6年度難病ケア推進事業の実績、令和6年度患者アンケート調査結果について報告した。 2 議題 令和6年 12月～2月に実施した難病患者・家族の支援に係るアンケート調査の結果を報告するとともに、アンケート調査結果からみる課題・取組の方向性について共有した。	
委員からの意見	2 議題 (1)令和6年度難病患者・家族の支援に係るアンケート調査について ・様々な難病疾患が障害福祉サービスの対象となっている。医療の情報をサポートしてくれる機関があるとよい。また、疾患数が少ない患者会の情報も発信して欲しい。 (2)令和6年度難病患者・家族の支援に係るアンケート調査結果からみる課題・取組の方向性について ・進行性の神経・筋疾患については病気の進行のスピードが速く、喪失体験が非常に大きい。難病患者・家族を支援する上で心理的サポートは重要である。 ・難病患者の支援において、障害福祉サービス等について知らない部分が多い。制度やサービスに関する勉強会や情報共有をする場があるとよいと感じる。 ・医療相談について、同じ病気でも患者さんによって症状が異なる。患者さんの同意があれば、支援者も同席し、患者さんとともに主治医に知りたいことを確認してもらうのが確実である。	

今後の方向性

令和6年度難病患者・家族の支援に係るアンケート調査の結果を踏まえ、関係機関との連携を進め、難病患者・家族の支援の充実や体制整備を図る。

令和7年度

第1回 母子保健推進部会(自立支援協議会)		＜事務局:こども保健課＞
開催日時	令和7年10月15日(水) 13:30 ～ 15:00	
出席者 (委員)	河合 新治 豊橋市医師会理事 小児科 長谷川 充 豊橋市歯科医師会 理事 加藤 理恵 豊橋市薬剤師会 理事 杉本 真里 豊橋市民病院 小児科(新生児) 副部長 後藤 久代 難病のこども支援東海ネットワーク 副会長 鈴木 隆朗 豊橋あゆみ学園 園長 榊原 幸代 愛知県立豊橋特別支援学校 教頭 大西 友紀 豊橋市医師会訪問看護ステーション 管理者	
議題	1 令和6年度事業報告について 2 令和7年度事業について 3 小児慢性特定疾病児童等の就園・就学相談等のご案内作成について	
内容	1 令和6年度事業報告について ・事務局より、小児慢性特定疾病の状況、および医療的ケアの必要な児の内訳やサービス利用している者等の報告。 2 令和7年度事業について ・事務局より、小児慢性特定疾病児童等交流会実施報告、小児慢性特定疾病の改正点について報告。 3 小児慢性特定疾病児童等の就園・就学相談等のご案内作成について ・事務局より、「小児慢性特定疾病児童等の就園・就学相談等のご案内」の作成経緯報告と関係機関への調査について報告。 ・「小児慢性特定疾病児童等の就園・就学相談等のご案内」について協議	
委員からの意見	・小児慢性特定疾病児童等は、薬剤の継続が途絶えると病状の悪化に繋がる恐れがあるため、災害に備えた体制づくりが重要だと考えている。 ・「小児慢性特手疾病児童等の就園・就学相談等のご案内」は1枚でライフステージに沿って相談先やサービスがコンパクトにまとまっておりますとわかりやすいと思う。毎年ブラッシュアップして、より良いものになるとよい。 ・小児慢性特定疾病児童だけではなく、障害児すべての方に使えると良いと感じた。	
今後の方向性	小児慢性特定疾病医療の申請面談時に「小児慢性特定疾病児童等の就園・就学相談等のご案内」を本人・家族へ説明・配布。豊橋市ホームページに掲載。 保護者の就園・就学の不安が軽減され、就園・就学に必要な準備を円滑に進めていけるように活用していく。	

令和7年度

第1回生活衛生部会		＜事務局:生活衛生課＞
開催日時	令和7年7月2日(火) 13:30 ~ 15:00	
出席者 (委員)	<p>内藤 晴道 豊橋市獣医師会会長</p> <p>小林 一男 豊橋市自治連合会理事</p> <p>古橋 幸子 市民団体 命にやさしいまちづくりハーツ代表</p> <p>大河 さやか 一般社団法人 あにまるあいず代表理事</p>	
議題	<p>1 豊橋市動物愛護センターについて</p> <p>2 豊橋市動物愛護センター開所関連催事について</p>	
内容	<p>1 動物愛護センター建築工事進捗状況、開所日、開館曜日・時間、管理運営方針、取組内容について情報共有</p> <p>2 内覧会、開所記念式典、開所記念イベント日程・場所の情報共有</p>	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・野良猫問題の対応について、さらなる地域猫活動の啓発を望む。 ・動物飼育に係る高齢者問題への対応について、高齢者の健康増進のためにも譲渡対象者の年齢制限について検討をお願いしたい。また、飼い主が先に亡くなった場合の動物の譲渡システムを考えてもらいたい。 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・動物愛護センターにおける取組について、関係団体の意見を参考に、引き続き検討を継続する。 	